

鳴教大大学院生が製作したアニメ教材を使って行われた授業―徳島市内の津田小

鳴教大大学院生
津田小児童 特産品など学ぶ

アニメ教材で授業

鳴門教育大学の大学院生が製作した社会科のアニメ教材を使った授業が五日、徳島市内の津田小学校で行われた。学校現場の教育課題の解決を通じて大学院生の授業力を高めようと、鳴教大が昨年十月に導入した新カリキュラムの一環で、三年生三十六人が徳島市の特産品について学んだ。



「特産品って何だろう」と題する十五分間の教材では、スタチやサツマイモを例に▽たくさん作られている▽みんなが欲しがるブランド品▽宣伝されている―といった特産品の定義を紹介。児童は同校の佐藤章浩教諭の解説を聞きながら、徳島市の特産品が何かを話し合った。

教材は「子どもの社会的見方や考え方を育てるデジタル教材の開発」をテーマに、大学院生が六種類製作。社会のほか英語と音楽で授業法や教材を考案している。今回はテーマを大学が決めたが、来年度以降は県内の学校から公募する。

授業を見学した製作者の一人で大学院二年の松本美沙子さん（四）は「特産品の要点は児童に伝わったはず。対象年齢などを考慮しながら今後、改善していきたい」と話した。

徳島新聞 3月6日(木) 25面